実施要領　様式11（第13条関係）
[認知症対応型共同生活介護用]

評価結果公表票

作成日　平成20年5月28日

【評価実施概要】

事業所番号	270201726
法人名	有限会社アップルホーム
事業所名	グループホーム石川の家
所在地	弘前市大字石川字岸田152 （電　話）　0172-49-7000
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30　県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成19年12月16日

【情報提供票より】（平成19年11月13日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2　ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	16 人	常勤　14人，非常勤　2人，常勤換算　6.75人	

（2）建物概要

建物構造	木造　造り
	階建ての　～　階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	15,000　円		その他の経費(月額)	円
敷　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　900　円			

（4）利用者の概要（　11月13日現在　）

利用者人数		18 名	男性　2 名	女性	16 名
要介護1		1　名	要介護2	5	名
要介護3		5　名	要介護4	6	名
要介護5		1　名	要支援2	0	名
年齢	平均	77.6 歳	最低　59 歳	最高	89 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	畑山医院、かなもり歯科

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「地域社会とのつながりを大切に、その人らしく楽しく幸せに暮らしていけるよう支援します」という理念を掲げている。理念は職員間での共有が図られており、町内の行事に積極的に参加する等、理事長始め全職員が地域にホームを理解してもらえるよう取り組んでいる。

全職員が個々の力量や希望等に応じた研修を平均的に受講できるよう年間計画を作成しており、勤務体制に配慮した上で外部研修に職員を派遣したり、内部研修は夜間に実施する等、利用者への支障のないよう工夫しながら職員の資質向上に努めている。

虐待や身体拘束について全職員が理解しており、虐待や拘束のないケアに努めている。また、虐待を発見した場合の対応等が明記されたマニュアルや、やむを得ず拘束を行わなければならない時は家族の同意を得る等の仕組みが整えられている。

【特に改善が求められる点】

日中と夜間を想定した避難誘導策を作成する等の取り組みは行われているが、災害時に備えた備蓄品は用意されていないので、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を準備してはどうか。

栄養バランス等に配慮された献立を作成するよう努めているが、栄養士等の専門家から助言を受けられる体制とはなっていないので、保健所や医療機関、訪問看護ステーション等に協力を呼びかけるなどの取り組みに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の評価結果を受けて改善に向けた話し合いを行っており、玄関に理念を掲示したり、個人別の年間研修計画を作成する等の取り組みを行っている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	管理者は、評価のねらいや活用方法等を職員に周知しており、自己評価は会議で検討して作成するなど、全職員で取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	運営推進会議は3ヶ月に1回開催しており、ホームの実状や防災対策等について話し合い、委員から意見を出してもらっている。また、委員の意見を基に職員間で検討しており、災害時や利用者の無断外出時に地域からの協力が得られる体制を整えたり、避難路にスロープを取り付ける等の取り組みが行われている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部10，11）
	写真を掲載した手紙やホーム便りを通じて、暮らしぶりや健康状態等を家族に伝えている。また、面会時は家族が意見等を出しやすい雰囲気を作ったり、玄関に意見箱を設置する等の取り組みを行っている。家族から意見等が出された時は今後のケアサービスにつなげる仕組みとなっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	理事長自らが地域の世話役として活躍していることもあり、町内の行事に参加したり、小学校の発表会に招待される等、地域との関わりが積極的に持たれている。また、利用者のプライバシーに配慮した上で実習生やボランティア、地域の伝統である獅子舞の訪問等を受け入れるほか、認知症の豆知識を掲載したホーム便りを家族や地域に配布する等、ホームの機能を地域に還元する取り組みが行われている。

【各領域の取組状況】

領　域	取り組み状況
Ⅰ 理念に基づく運営	管理者や職員は地域密着型サービスの意義や役割を理解しており、地域との関わりを意識した支援を心がけている。 内部研修を通じて地域福祉権利擁護事業等に関する知識を深めており、必要に応じていつでも家族に情報を提供できる体制となっている。 地区のグループホーム協会に加盟しており、年2回の交換研修や行事に参加し、他事業所との情報交換等を図っている。また、他事業所との関わりを通じて得られた気づき等は今後のケアに反映させている。
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係作りと支援	利用者が安心してサービスを開始できるよう、入居前に見学や体験をしてもらうほか、利用者や家族の意向を把握できるよう十分な話し合いを行っている。 職員は、利用者と共に生活することを通じて、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、漬物作りや野菜作り、大工仕事等、利用者が得意な分野では力を発揮してもらっており、利用者と職員が助け合いながら生活している。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	利用者との日々の関わりや面会時の家族からの情報を基に一人ひとりの意向等を把握するとともに、職員で話し合いを行い、個別具体的な介護計画を作成している。計画は3ヶ月ごと、あるいは随時の見直しを行っている。 重度化や終末期のケアに関する指針を作成している。入居時に利用者や家族に説明して同意を得るほか、折に触れて家族や医療機関と話し合いを行い、意思統一を図っている。
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	利用者一人ひとりの羞恥心やプライバシーに配慮するとともに、個々のペースや体調を大切にしたケアを提供するよう努めている。 入浴日は2つのユニットで別々の日を設定しているため、利用者の希望にそった支援を行うことができる。また、入浴を拒否する利用者に対しては、対応する職員を替える等の工夫を行っている。 共用空間には食卓やソファー、季節の鉢植え等が置かれており、家庭的な空間となっている。また、居室にはテレビや冷蔵庫、家族の写真等が持ち込まれており、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮されている。

評　価　報　告　書

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営 **1．理念と共有**					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者及び職員は地域密着型サービスの意義や役割を理解している。これまでの理念を見直し、「地域社会とのつながりを大切に、その人らしく楽しく幸せに暮らしていけるよう支援します。」という新たな理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関や各ユニットのホールに掲示するほか、ミーティングで確認し、職員間での共有を図っている。また、地域との関わりを意識した支援を心がける等、理念の実現に向けた取り組みが行われている。		
2．地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	理事長自らが地域の世話役として活躍していることもあり、町内の行事に参加したり、小学校の発表会に招待される等、地域との関わりが積極的に持たれている。また、利用者のプライバシーに配慮した上で実習生やボランティア、地域の伝統である獅子舞の訪問等を受け入れるほか、認知症の豆知識を掲載したホーム便りを家族や地域に配布する等、ホームの機能を地域に還元する取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価のねらいや活用方法等を職員に周知しており、自己評価は会議で検討して作成する等、全職員で取り組んでいる。また、前回の外部評価の結果を基に改善策を話し合う等、より良いケアサービスを提供できるよう努めている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回運営推進会議を開催しており、ホームの実状や防災対策等について話し合い、委員から意見をもらっている。また、委員から出された意見を基に職員間での検討を行っており、避難路にスロープを設置する等、より良いケアを提供するための具体的な取り組みが行われている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	プライバシーに配慮した上でホーム便りを行政に配布している。また、第一回目の運営推進会議に担当者に参加してもらって以降、行政との連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	内部研修を通じて地域福祉権利擁護事業等に関する理解を深めるほか、現在権利擁護事業を利用している方がおり、職員は概要を理解している。また、必要に応じていつでも家族に情報提供ができる体制となっている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部・外部研修を通して、職員は虐待はあってはならないことと認識している。また、管理者は職員のケア提供場面を観察し、虐待を未然に防ぐよう努めるほか、虐待を発見した場合の対応等に関するマニュアルを作成し、全職員に周知している。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用希望者には事前に見学や利用体験等をしてもらったり、自宅を訪問する等、ホームでの暮らしが十分に伝わるよう説明を行っている。また、契約内容変更時や退居時にも十分に説明を行って同意を得ている。退居時には、必要に応じて退居先に関する情報提供を行う等の支援も行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真を掲載した手紙等を利用し、暮らしぶりや健康状態、受診状況等を定期的に報告している。また、利用者の金銭は記録しており、毎月領収書を添付して家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は家族が苦情等を話しやすい雰囲気を作っている。また、重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示したり、苦情受付箱を玄関の見やすいところに設置する等の取り組みも行っており、家族から出された意見は今後のケアサービスに反映させている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響に配慮し、基本的には職員交代は行わないようにしている。また、2つのユニットの職員が日ごろから関わりを持ち、全利用者に馴染めるよう努めている。新しい職員を配置する場合等は利用者への説明を行うとともに、採用前にボランティアとして関わってもらい、業務や利用者に慣れてもらう等の配慮が行われている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が力量や希望等に応じた研修に平均的に参加できるよう、年間計画を立てて研修派遣を行っている。研修後は報告書を作成し、ミーティング等で他の職員に周知し、情報を共有している。外部研修に職員を派遣する際には勤務体制に配慮したり、内部研修は夜間に実施する等、利用者へのケアに支障がないよう工夫している。また、訪問看護ステーションと連携を図っており、医療面でのアドバイスを受けられる体制が整えられている。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム協会に加盟しており、年2回の交換研修や行事に参加し、他事業所との交流・情報交換を図っている。また、他事業所との関わりを通じて得られた知識や気づきは今後のケアサービスに反映させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してサービスを開始できるよう、入居前に見学や体験をしてもらうほか、利用者や家族の意向を把握できるよう十分な話し合いを行っている。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と共に生活することを通じて、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、漬物作りや野菜作り、大工仕事等、利用者が得意な分野では力を発揮してもらっており、利用者と職員が助け合いながら生活している。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの希望や思いを把握するために、日々の気づきを大切にしている。また、利用者や家族との会話から個々の意向等を把握するよう努めている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりや面会時等を通じて利用者や家族の意向を把握するほか、職員の気づき等を話し合った上で介護計画を作成しており、個別具体的な内容となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、基本的には3ヶ月に1回の見直しを行っている。また、利用者の状態や家族の要望等の変化時は、その都度の見直しを行っている。見直しを行う時は、職員間での話し合いを行うとともに、利用者や家族から意向等に関する情報収集を行っている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時の送迎等、利用者や家族の様々な要望に柔軟に対応するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの受診履歴を把握しており、希望する医療機関での受診を支援している。かかりつけ医には定期的な受診に対応してもらうほか、体調変化等がある時はいつでも気軽に相談することができる。また、夜間対応の医療機関を確保したり、訪問看護ステーションとの連携を図る等の体制も整備されている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアに関する指針を作成しており、入居時から利用者や家族等に説明し、同意を得ている。また、折に触れて家族や医療機関と話し合いを行い、意思統一を図っている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** （1）一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの言動を否定することなく、利用者を「さん」付けで呼ぶ等の配慮を行っている。また、介助時には羞恥心や自尊心を傷つけないよう心がけている。内部研修等を通じて職員は個人情報保護法について理解しており、個人記録は訪問者の目につく場所に保管しない等の対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かさず、また、職員の都合を優先することなく、一人ひとりの体調やペースに合わせたケアを提供するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には利用者の希望を取り入れている。また、食事の準備や後片付けなど、利用者と職員が一緒に行ったり、朝・昼食は職員も共に食事を摂る等、食事を楽しめるような工夫が行われている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2つのユニットで別々の入浴日となっているため、希望があれば毎日でも入浴することができる。入浴は一人ずつとなっており、必要に応じて職員が介助している。また、入浴を拒否する利用者に対しては、対応する職員を替える等の工夫を行っている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や力量等が活かせるよう、料理や掃除、畑仕事、塗り絵等を役割や楽しみごととして促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞きながら買い物や外食等に出かけるほか、近隣への散歩に出かけている。外出時にはホームの車やレンタカーを使用する等、利用者の身体状況などに配慮した対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（4）安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者や職員は身体拘束について十分理解しており、拘束は行わないケアに取り組んでいる。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は、家族の同意を得る等の仕組みとなっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関を施錠しておらず、外出傾向のある利用者については見守りを行い、察知した時は職員が付き添う等の対応を行っている。また、無断外出時に備えて郵便局やJA、駐在所等に協力を呼びかけている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中だけでなく、夜間も想定した避難誘導策が作成されており、年2回消防署と一緒に消防訓練を実施している。また、緊急避難先として町内の「老人福祉センター」を確保したり、近隣からの協力が得られる体制を整備している。しかし、災害時に備えた食料等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	災害時に備え、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意してはどうか。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事や水分の摂取量を観察し、記録している。以前勤めていた栄養士が作成していた献立を見習い、栄養バランス等に配慮したメニューを作成しているが、栄養士等の専門家から助言を得られるような体制とはなっていない。	○	保健所や医療機関、訪問看護ステーションの看護師等に協力を呼びかける等、栄養士等の専門家から助言を受けられるような体制作りに期待したい。
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルが作成されており、必要に応じて随時見直しが行われている。また、ミーティング等を通じて職員の理解を深めるほか、インフルエンザ等の流行時には家族にも情報を伝えている。		

外部評価	自己評価	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（１）居心地のよい環境づくり**					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には食卓やソファー等が設置されているほか、季節の鉢植え等も置かれており、季節感のある家庭的な雰囲気となっている。また、職員の声や室内の明るさもちょうど良く、快適な空間作りが行われている。		
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビやソファー、冷蔵庫等が持ち込まれているほか、手芸品や家族の写真等が飾られており、落ち着いて暮らせる空間となっている。		

※ は、重点項目。